

◆令和8年1月～6月の事故の状況◆

- ☆労働災害と公衆災害を合わせた工事事故全体の件数は、28件発生しており、過去5年平均（23件）と比べ5件増加しています。
- ☆労働災害は19件発生し、過去5年平均と比べ増加しています。原因別では、「工具取扱い」などの事故が増えています。
- ☆休業4日以上労働災害は10件発生しており、重大事故の発生割合が増加しています。死亡事故も1件発生しています。

- ・夏の時期は気温や湿度が高く、蒸し暑い日が続きます。本格的な暑さとなる真夏はもちろん、気温がそれほど高くない日でも**熱中症のリスクがある**ため、十分な注意が必要です
- ・各地で**クマの目撃情報が相次いで報道**されています。とくに山間部の工事現場はリスクが高いですが、人里でも安心できません。被害にあわないよう対策をご検討ください。

～工事事故の発生状況～

※北陸地方整備局発注の直轄工事を対象としています。
※使用している数値は速報値であるため、今後変更となる可能性があります。

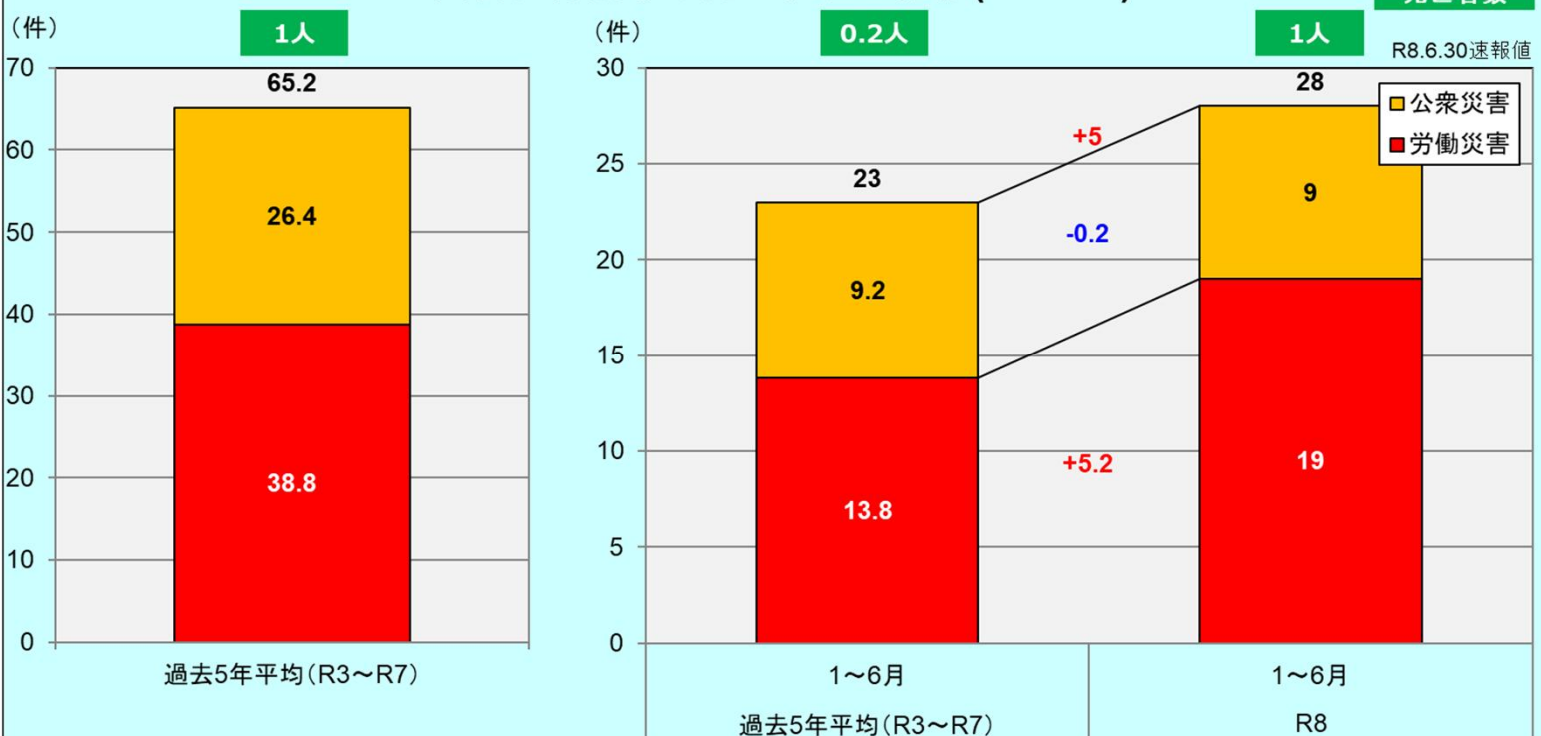
令和8年1月から6月までの事故件数は28件で、過去5年平均と比べ5件増加しています。

労働災害は19件、公衆災害は9件発生し、過去5年平均と比べ労働災害は増加（+5.2件）、公衆災害は大きな変化はありません。

災害区分別事故発生状況の推移(R3～R8)

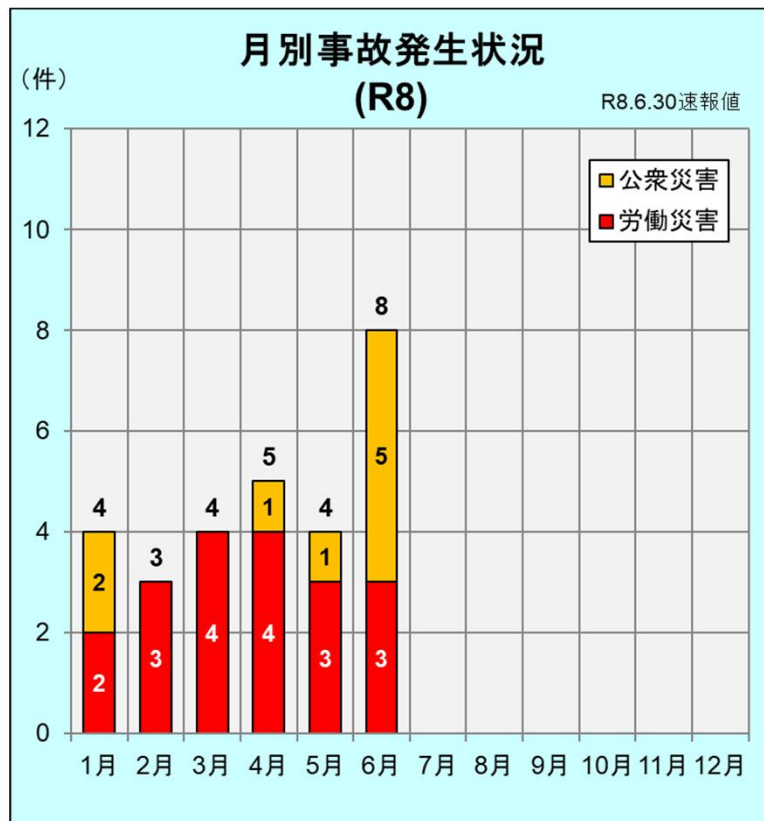
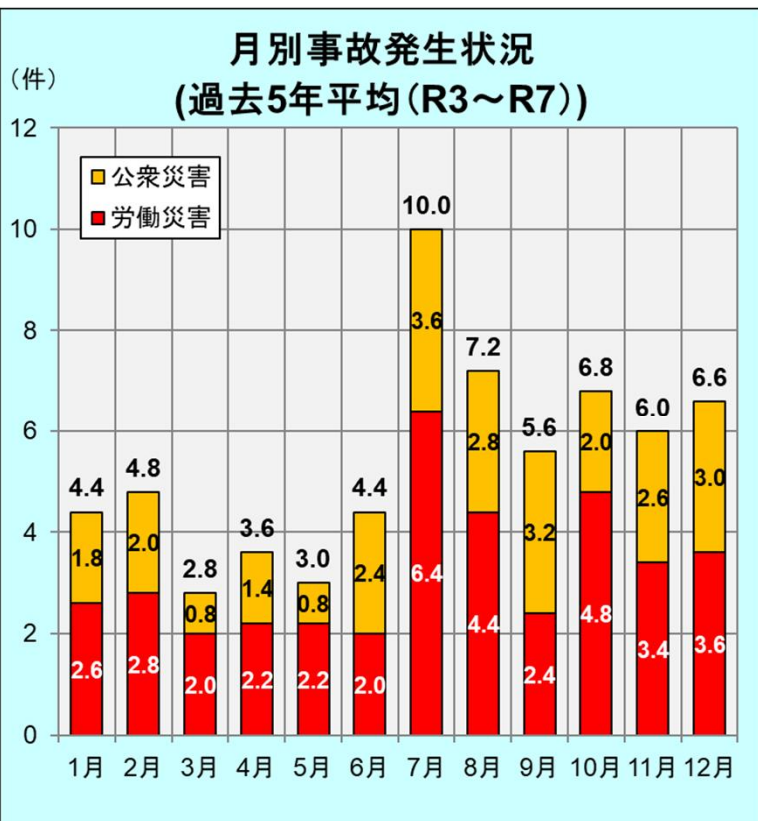
死亡者数

R8.6.30速報値



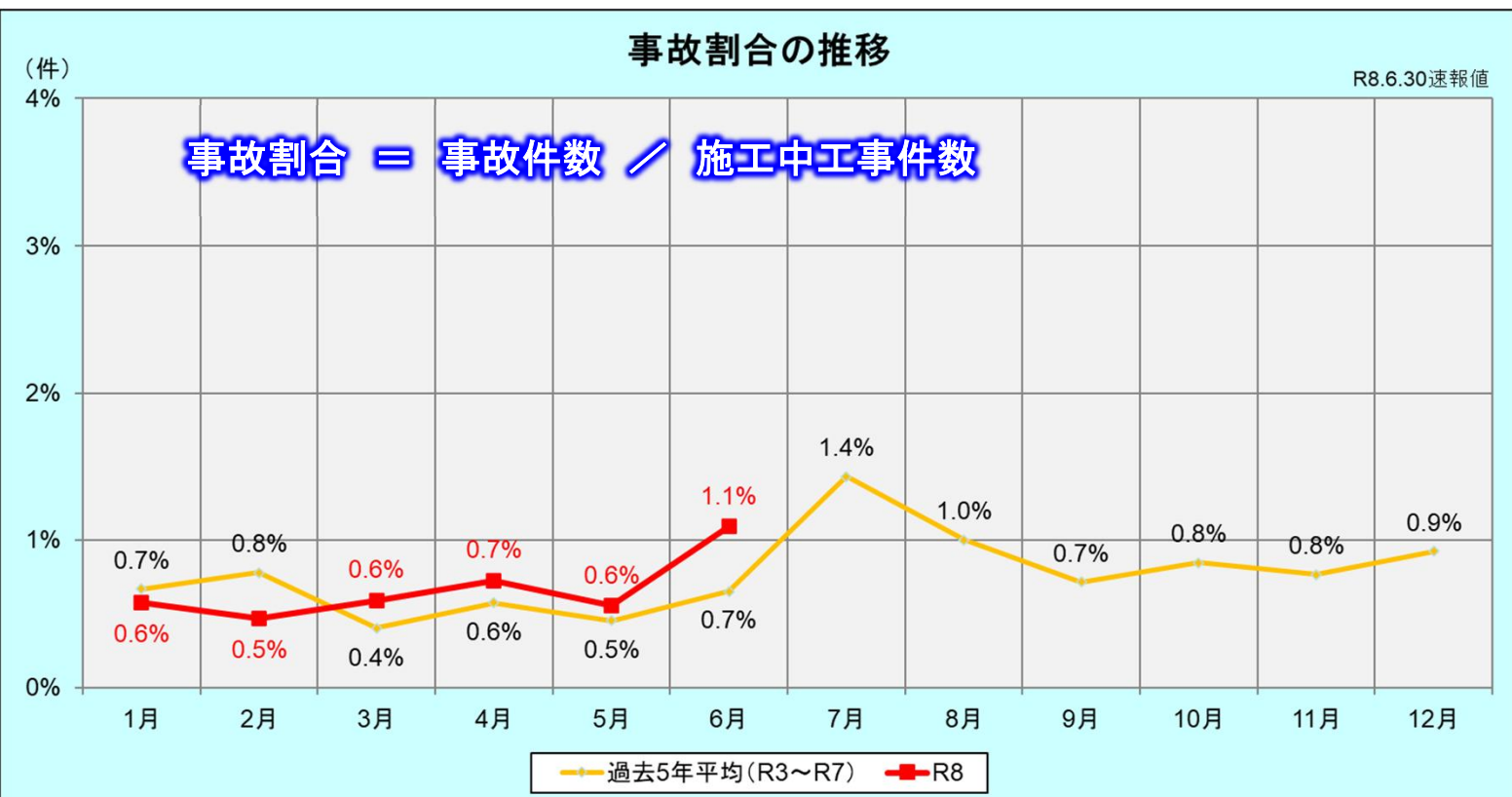
・月別の事故発生件数

過去5年平均と比較すると、1月・2月は減少していますが、3月以降は増加しています。



・事故割合

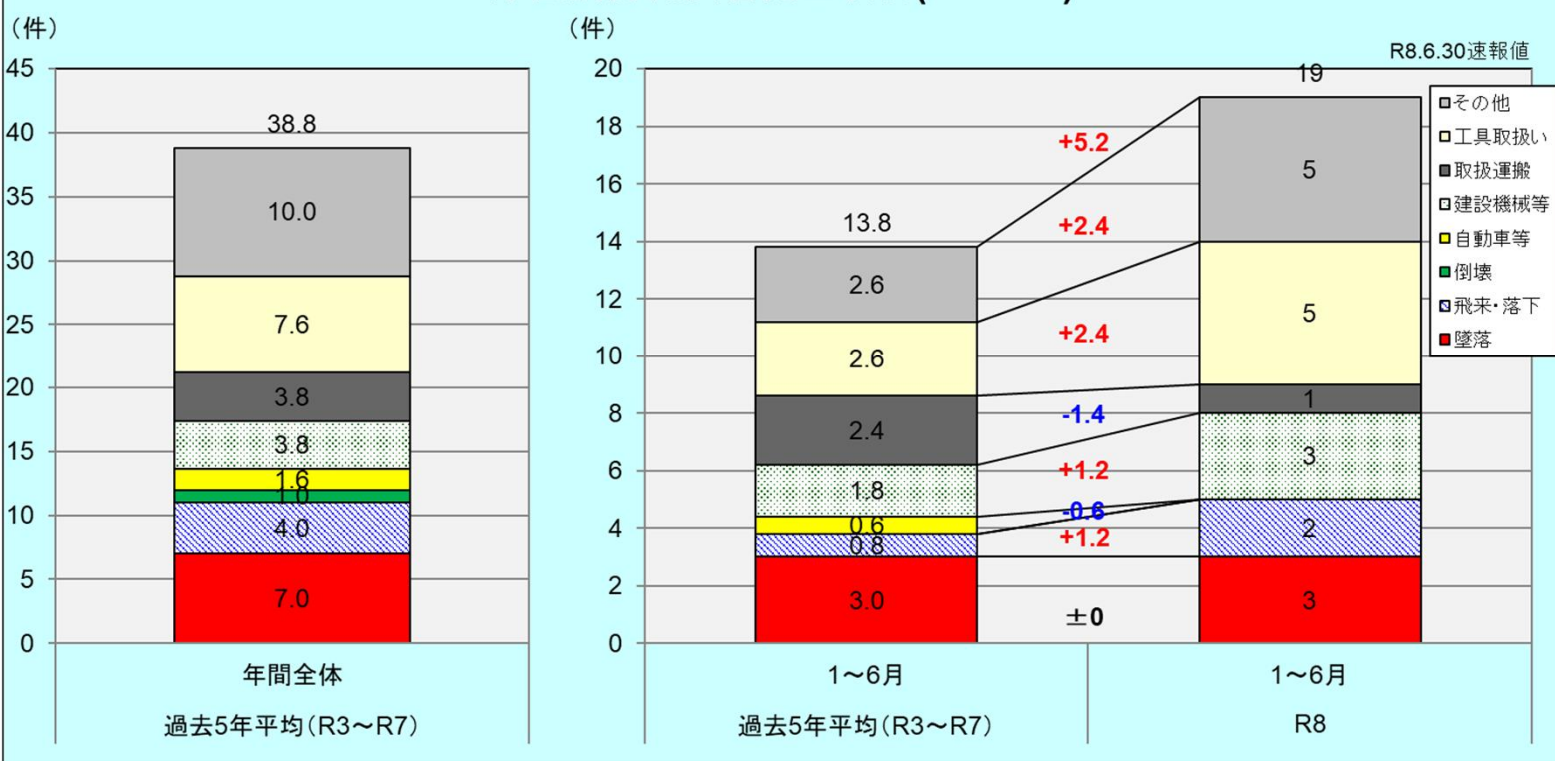
過去5年平均の事故割合の比較では、1月・2月は平均を下回っていますが、3月以降は平均を上回っています。これからの時期は事故割合が増加する傾向がありますので特に注意が必要です。



・労働災害の原因別事故発生件数

令和8年1月から6月までの労働災害は19件で、過去5年平均と比べ増加しています。原因別では過去5年平均と比べ、「工具取扱い」や「その他」が増加しています。

原因別労働災害発生状況(R3～R8)

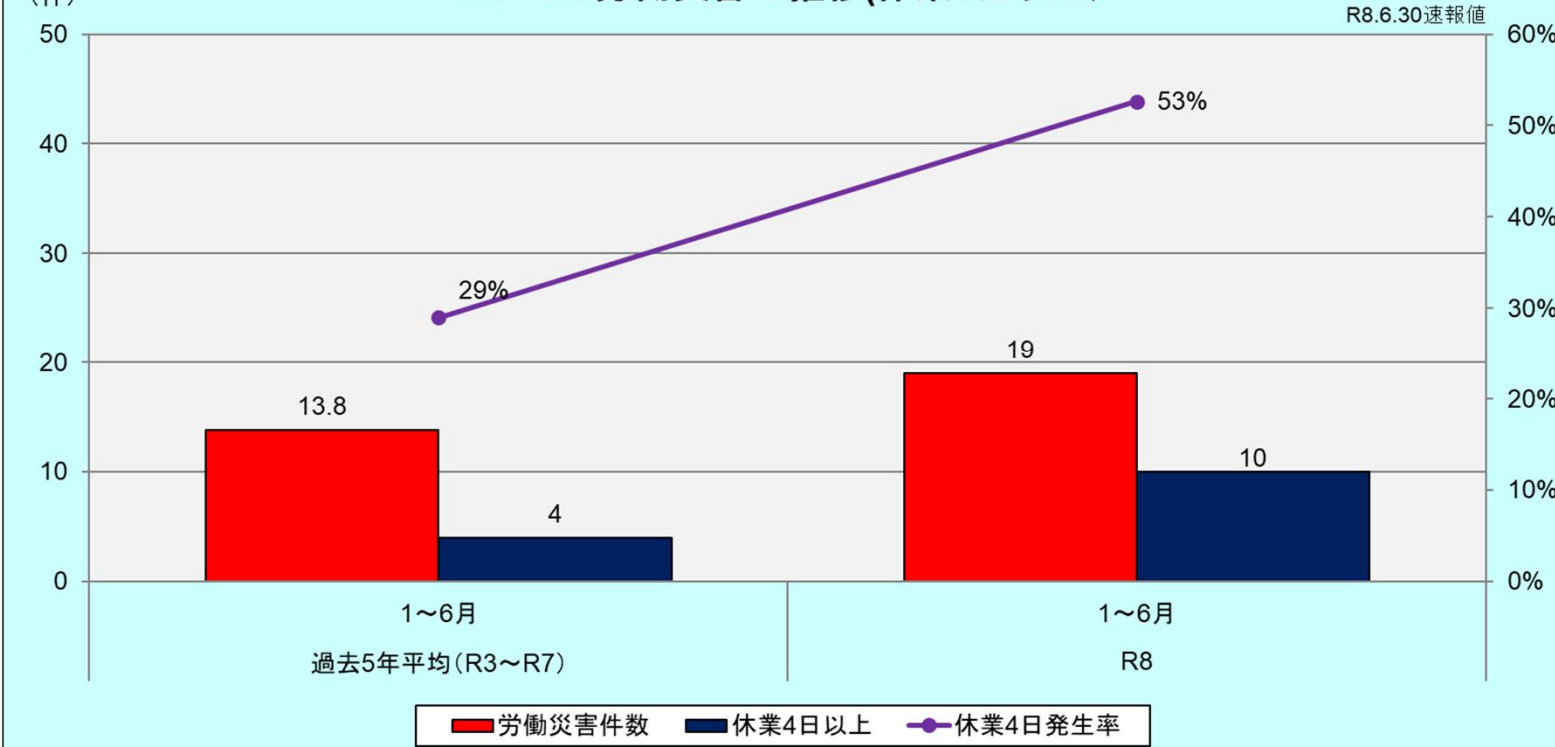


※その他：転倒、土砂崩落・電気・爆発・港湾・その他事故 等

・休業4日以上事故発生状況

令和8年1月から6月までの労働災害は19件で過去5年平均（13.8件）より増加しており、休業4日以上の重大事故の発生割合も29%から53%に増加しています。

R3～R8労働災害の推移(休業4日以上)

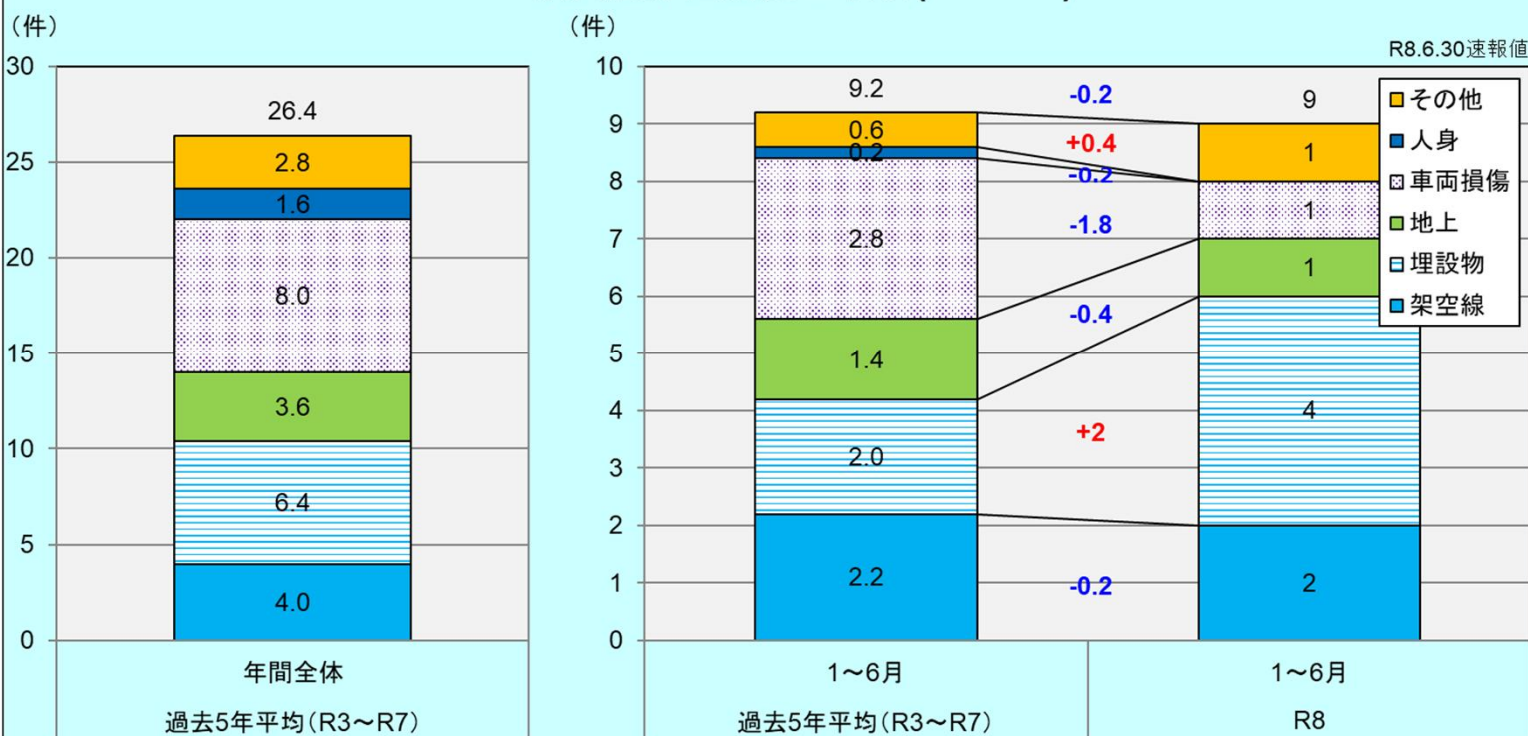


・公衆災害の原因別発生状況

令和8年1月から6月までの公衆災害は9件で、過去5年平均（9.2件）と比べて大きな変化はありません。原因別では過去5年平均と比べ、「埋設物」が増加している一方、「車両損傷」は減少しています。

公衆災害原因別発生状況(R3～R8)

R8.6.30速報値



※その他:室内・壁内損傷、水質汚濁、その他事故等

休業4日以上は建設工事事務データベース（SAS）に登録

- ・建設工事事務データベース（SAS）は、地方整備局・都道府県・政令指定都市・機構等が発注する公共工事で発生した一定規模以上の事故の事故報告データの集合体です。収集されたデータは、建設工事事務対策検討委員会や発注者において、工事事故防止に向けた対策の検討・立案に利用しています。
- ・休業4日以上の建設工事事務等を対象に、登録に必要な事故番号、パスワードを発注担当課長等に通知します。受注者・発注者は、WEBサイトの登録画面から入力してください。

✓ <https://sas.hrr.mlit.go.jp/>



SAS
Safety Analysis System

- ・登録に関する詳細については、ホームページ内の「SASのガイドライン」を参照して下さい。

【問合せ先】 北陸地方整備局 企画部 技術検査官 片野

・夏場の安全管理の徹底について

熱中症、クマ対策の徹底を！！

●熱中症対策の徹底を！！

北陸地整管内では、令和7年は6件、**令和8年は7月末までに3件の熱中症が発生**しています。

今年の夏も暑さが厳しくなることが予想され、熱中症リスクが高まっています。まめな水分補給を心掛け、熱中症対策を徹底しましょう。

●熱中症予防情報サイト

環境省の熱中症予防情報サイトに「熱中症警戒アラート」、全国の「暑さ指数の実況と予測」等が掲載されていますので、熱中症予防対策の参考にして下さい。

【環境省：熱中症予防情報サイト】<http://www.wbgt.env.go.jp/>

●クマによる被害に遭わないよう注意！！

全国で**クマの出没、人身被害が増えています**。クマの活動が活発となる早朝や夕方は特に注意が必要です。各県のHPにおいてクマに対する注意喚起や、目撃情報をまとめた、出没マップ等の情報提供がされていますので、被害に遭うことのないよう、各職場、現場において確認と注意喚起をお願いします。

【環境省：クマに関する各種情報・取組】

<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html>

台風等が予測される場合は、早めの準備・対策を!!

1. 緊急連絡体制の確立

- (1) 関係機関及び隣接他工事の関係者とは平素から緊密な連携を保ち、緊急時における**通報方法の相互確認等の体制を明確**にしておくこと。
- (2) 通報責任者を指定しておくこと。
- (3) 緊急連絡表を作成し、関係連絡先、担当者及び電話番号を記入し、事務所、詰所等の**見やすい場所に標示**しておくこと。

2. 防災気象情報等の収集と対応

- (1) 事務所にテレビ、ラジオ、インターネット等を常備し、**常に防災気象情報等の入手に努める**こと。なお、防災気象情報等の確認にあたっては、広域的に確認すること。

3. 作業の中止、警戒及び各種点検

- (1) 防災気象情報等を踏まえ、**作業の中止を判断**すること。

4. 大雨に対する措置（作業現場及び周辺の整備）

- (3) 大型機械等の設置してある場所への冠水流出、地盤のゆるみ、転倒のおそれ等がある場合は、早めに適切な場所への**退避又は転倒防止措置**を講じること。

5. 強風に対する措置

- (1) 強風の際には、クレーン、杭打機等のような風圧を大きく受ける作業用大型機械の休止場所での**転倒、逸走防止**には十分注意すること。

土木工事安全施工技術指針（令和8年3月）より抜粋

<https://www.mlit.go.jp/tec/content/001990889.pdf>

・架空線・埋設物等への接触・切断事故防止対策の徹底について

架空線・埋設物等への接触・切断事故防止対策の徹底を！！

●架空線・埋設物等への接触・切断事故防止対策

近年の工事事故の傾向として、**架空線、埋設物等への接触、切断の事故が多**なっています。掘削を行う前には、十分に情報の収集、試掘を行い埋設物への接触、切断事故の防止をお願いします。

また、バックホウの回送時に手元に気を取られ、架空線に接触する等の事故も発生しています。作業前だけでなく、作業後にも周辺の状況をよく確認し、接触防止の必要な措置を行い、架空線へ接触しないよう気を付けましょう。

架空線、埋設物等の切断事故は**社会的影響が極めて大きい**ことから、接触、切断事故の防止対策の徹底をお願いします。

【事件事例：掘削時に埋設信号機ケーブルを切断】

市道切り回し工事のため、迂回路線形上にある花壇の土砂をミニバックホウで掘削撤去作業を実施。作業中にバケットの爪で信号機の埋設通信管（深さ300mm付近）を切断した。



【事件事例：バックホウの回送時に架空線を切断】

法面除草作業終了後、バックホウを回送するため、積込場所まで自走移動中に、市道上で方向転換して個人宅に引き込んでいる通信ケーブルとバックホウが接触し、通信ケーブルを切断した。

